

冬鳥観察から考える 環境問題

Report 小島淳子 (MELON 水部会メンバー)

立春寒波ながら快晴の 2 月 4 日 (土) 角田市で開催した観察会には、14 名が参加しました。講師は、日本野鳥の会などに所属しながら、地元を中心に執筆活動や愛鳥教育を実践している高城務さん。

まず、学水館あぶくま・角田館 (阿武隈川の体験型施設) で、高城さんから、野鳥の種類や渡り鳥の集まる環境などについてのお話を伺い、バスで手代木沼へ移動しました。

江戸時代に農業用ため池として築造された手代木沼は、夏には蓮の花が一面に咲き、冬には渡り鳥が飛来し越冬します。水深が平均 1m と浅いので、マコモが群生し、沼の水を浄化し、野鳥の餌にもなっています。最近排水設備が作られたものの、給水は自然任せのため、夏場に水面が浅くなり、温度が上昇、メタンガスが発生することもあるそうです。沼の中央に人工的に作った建物が、ハクチョウの飛び立つスペースを奪い、飛来数が激減したため、取り壊したこともあったとか。鳥の立場を考えた施策が望まれます。

日本で観察できる約 275 種の鳥のうち、約 74 種が秋に北から日本に飛んできて春に北へ帰って行く冬

鳥です。この日は凍結した湖面の合間に数種類の野鳥を観察しました。全国的な現象として、餌付けするようになってから、小型のマガモやコガモ、コハクチョウが減り、大型のオオハクチョウやオナガガモが増えているそうです。

渡り鳥は、夜通し飛び続けても、月光を反射して光る湖面を見つけることができます。鳥かんの見ているので温暖化などの地球の温度変化に敏感に反応した行動をしているそうです。ロシア方面からの長旅をしたハクチョウは痩せていて首が細いこと、ハクチョウは 6 月に生まれ 9 月には成鳥の大きさになるが白い羽根になるまで 3 年かかること、白い羽根に生えそわわないハクチョウの子が毎年飛来してくること、帰化鳥であるガビチョウ (画眉鳥) がウグイスの生息環境に入り込み、ブラックバスと同様に生態系をこわしていること、等々。高城さんのお人柄に惹かれつつ、渡り鳥の気持ちに近づいた 2 時間でした。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

みやぎ生活協同組合からのお知らせ

みやぎ生協では、宮城県内の自然と緑を豊かにする活動として「COOP 緑の基金」活動を行っています。みやぎ生協店舗で回収したアルミ缶の売却益や「緑の里親募金」などをもとに県内の「こ～ぶの森」に広葉樹を植林しています。また、緑の基金の活動について知ってもらい、緑が環境保全に果たす役割などについて理解を深めるために観察会を行っています。今回は春から初夏にかけて予定されている行事をお知らせします。

緑の里親ハイキング

日時：4 月 8 日 (土) 10:30~14:00
場所：仙台市青葉山
(青葉の森管理センター集合)
参加費：500 円 (中学生以下半額)

緑の観察会

日時：6 月 3 日 (土) 8:30~16:00
場所：蔵王ドッコ沼周辺のブナ林
(仙台駅西口 8 時 20 分集合)
参加費：2,000 円
(バス代を含む、中学生以下半額)

「こ～ぶの森立神山」植林体験会

日時：4 月 22 日 (土) 8:30~16:00
場所：石巻市北上町十三浜
(仙台駅西口 8 時 20 分集合)
参加費：2,000 円
(バス代含む、中学生以下半額)

<参加申込み、問い合わせ先>

みやぎ生協 生活文化部
緑の基金運営事務局 担当：昆野
〒981-3194 仙台市泉区八乙女 4-2-2
生協文化会館ウイズ 1F
TEL: 022-218-5331 FAX: 022-218-5945
E-mail: kankyouk@snet.coop.or.jp
ハガキ、FAX、メールのいずれかで、氏名・住所・電話

番号・参加したい企画名を明記の上お申込みください。